

2020 年度後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

一文芸学部

学部長 林田伸一

2020 年度後期の授業改善アンケートで最も注目すべきは、1～13の設問のすべてにおいて、同年の前期の結果よりも良い数値が出ている、ということです。たとえば、設問11「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は、前期の4.12から、後期には 4.34 に上昇しています。他の設問についても、概ね0.2～0.25 ポイント程度上昇しています。

2020 年度前期の集計結果も比較的高い数値で、授業が学生さんたちに肯定的に受けとめられていることが示されていましたが、後期はさらに良い結果が出たこととなります。遠隔授業においては課題の量が多くなりがちで、教育イノベーションセンターが行った調査においても、学生さんたちが訴えていたのは課題が過多であるということでした。これに関連する設問としては、設問5「授業の課題は適量であった」がありますが、これも、前期の 4.01 から後期には 4.27 と改善されています。他の設問からも、教員が学生の声を適切に後期の授業に反映させていたことがわかります。

また、学生さんの方も、設問2「この授業の内容を理解するために努力した」が 4.44 と前期よりもさらに高い数値を示していて、コロナ禍の十分とはいえない環境の中で努力をしていることが窺えます。教員としては、たいへんにうれしいことです。

授業で用いられた手法については、エ「質疑応答」とキ「プレゼンテーション」の数値が前期と比べて大幅に上昇しています。この理由として考えられるのは、前期の授業はすべて遠隔で行われたのに対し、後期には、担当教員が必要と考え学部が承認すれば、対面授業が認められたことでしょう。

以上